
「**水**」,「**ホチキス**」,「**充電器**」

蒼月光華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三題話「水」
「ホチキス」
「充電器」

【Nコード】

N8641L

【作者名】

蒼月光華

【あらすじ】

恋愛？

なげっぱなしー

（前書き）

またもや自己満足。

この学校に来て、三ヶ月目。
僕は、転校生なのです。

それでも、修学旅行には行かなければならないそうで。

四月。

三年になると同時に、僕はこの町の、この学校に来ました。
幸い、時期のおかげでなじむのは簡単だったけど。

最初はチャホヤされる。

いつものこと。

進学校にいた二年の二学期の時、通常の高校の三年の範囲は全て習得した。

というかさせられた。

正直つらかった。

まあそのおかげで、人の目は引くし、勉強を教えてほしい、と言う名目で色々な人が寄ってくる。

おかげで友達は作らなくても、勝手にできる。
うむ、苦勞した甲斐があった。

さて、そんな学生生活なのだが、なんと恋人が出来た。

転校当初からよく話しかけてきた子で、理由を聞いたら彼女が一番突飛だった。

「あなたの目、なんか気に入ったのよ。だから話してみたかったの目。」

僕は、ハーフの子なので、目の色が違う。

しかもオッドアイ（左右の目の色が違う）だ。

よく、いじめられた理由で、こんなに綺麗で可愛い子が話しかけてきた。

僕としては、それだけ驚きだったのだ。

だから当然。

彼女に恋していた人が、僕を憎むのも当然なのだ。

小さなころは上履きに画鋲とか、よくあったものだけど。

トイレで上から水が降ってきたのは、さすがに人生二度目だ。

あ、しかも少し臭い。

…で、そのまま授業にでた。

驚いた人間の中で、一番怪しいのは見つけた。

先生に全て話し、そして犯人は僕に近寄らなくなることですぐにわかり。

クラスメイトのその彼女は、さらし者になった。

よくよく話を聞いていくと、僕は驚いたのです。

彼女は、僕の彼女になったあの子が好きだったのだろっと思っただけですが、実は僕が好きだったよううで。

かけられたのは彼女自身の尿のよううで。

彼女は

「あなたを私だけのものにしたかった。私の匂いをつけたかった」

いや、そこまで愛されても。

とりあえず当日のうちにその彼女の「匂い」は全て、綺麗さっぱり流してしまっただし。

逆に気持ち悪いです、としっかりと告げて。

好きなら好きと、伝えてほしかったです、と偽善めいたことを言うてそこを離れました。

で、今。

転校三ヶ月目。

六月、梅雨。

窓の水が叩いてる。

というか豪雨です。

ええ、すごい怖いです。

いろんな意味で。

その尿をかけてきた彼女とまた僕と話せるようになって、回りにまた溶け込めるくらいには時間がたっていて。

僕と彼女は二人きりで。

ホチキス片手に、修学旅行のしおりを綴じていました。

ガチンツ、ガチンツ！

景気のいいリズムでせつせと。

で、途中。

唐突なごめんなさい。

ふと顔を上げた彼女は泣いていて。

ああ女性の恋心はすごいものだ、そう思ったのです。

彼女は僕に近づき

「あなた、何をしているの？」

僕の彼女様が、扉を開け放ってこちらへ駆け込んできたのです。

「ねえあなた」

あ、僕のここのようです。

ぐいっと襟首つかんで引き寄せられて

「これ以上、他の女の匂いがするようになったら、私。あなたをど
うするか分からないわ」

一緒にしおりを作ってた子はずっと逃げ出して。

だから僕は告げたのです。

「今まで通ってきた学校に、二人ずつ彼女がいました」

「あなたは僕にとって、多分通過点です」

「あなたを、愛しています」

「けれど僕は、最愛の家族と離れられないのです」

「お金なんて自分で稼げないのです」

「あなたを愛しています」

「ここにいられるのはもう少しだけです」

「愛してください」

「愛させてください」

「ダメでしょうか？」

凜とした彼女は

いつも背筋を伸ばした彼女は

時折花のように笑う、彼女は

美しい顔を

可愛らしい顔を

崩してしまったのです。

そして彼女は告げたのです。

「私はあなたを愛している」

「私はあなたに愛されたい」

「あなたの全てを、今だけでいい」

「私に、ください」

泣く顔は、醜く崩れているのに

どうしてこうも、愛しく、美しいのですか。

ねえ教えてよ神様。

修学旅行は、二人の最後の思い出になりそうです。

簡単に言つと、ですね。

えっと、僕にキスをしようとしたクラスメイト、えっと尿の子です。その子があきらめ切れなかったらしく。

そこは京都名所、清水寺で。

まあ、突き落とされたのですよ、二人一緒に。

と、まあおかげさまで僕は目を覚まして。

実際、あそこで落ちて死ぬ人は少ないようで。

ねえだから

君も早く、目を開けてほ

危ない危ない。

ケータイの充電が切れるところだった。

僕はしっかりと充電器にケータイをつなげました。

いまだ眠る彼女の、ケータイにメールを送ります。

いつか彼女が起きた時、僕が送ったたくさんの言葉が届きますように。

今しがた作った、僕と君の物語を、君が読めますように。

いなくなった僕を、せめて君が忘れないでいてほしいから。

新しい学校には行きませんでした。
で、僕は今働いています。

彼女が帰ってきたとき、僕は彼女を迎えなくちゃ行けないから。
僕は、彼女を通らなければなりません。
約束ですから、しっかり別れを告げなければいけないのです。

彼女と僕が、死の眠りにつく、遠い未来。

別れを告げなければ、ならない時。

僕が彼女を通る、その時まで。

b y 僕

「おはよう、愛しい人。あれからもう三年たつたよ?」

「ありがとう、愛しいあなた。さようならかしら?」

「いいや、それはまだなのさ。それより、ケータイを見てごらん」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8641/>

三題話「『水』、『ホチキス』、『充電器』」

2010年10月20日09時43分発行